

俳人編集者の四季

「高知」の発音は「こーち」やろ

◆「行動するがせよ」

僕は雑誌づくりのキャリアは長いけれど、新聞の世界のことはほとんどわからない。けれども、新聞の一面のメインになる見出しというところになると、その新聞がその時に一番言いたいことが込められたフレーズだというのがはまちはいらないと云々と云う。

そして、「この大見出しでどう」という決定に至るまでは、編集部内をはじめさまざまなドラマがあるのではないかと想像する。つまり、この表現で自分たちが言いたいことが読者に本当に伝わるのか、いや伝わってほしい、という新聞あけての思いがその見出しには込められているはずなのだ。

なぜ今回、こういう「朝ふり」をするのかといえは、つい先日、どうしてこのフレーズが新聞一面の大見出しになるのかなあ、という思いをしたことがあったからだ。昨年11月16日の朝日新聞の夕刊、一面の最上段に大きな文字で「今こそ龍馬」という見出しが躍っていた。そして、その横にセーんと、黒地に白抜き文字で「行動するがせよ」。これには、ちょっとびっくりした。なんだなんだ、

という感じ。

記事は、全国に広がる「龍馬会」を紹介しながら、日本の企業人には龍馬的な発想が今も必要だと説いているもので、さして驚くような内容ではない。ただ、なにしろ、代表的な全国紙に方言を使った一面の大見出しである。

「せよ」なら土佐弁の中でも全国区だから使ったのだろう、というのには理解できる。しかし、どうか、それにしても、というか、「せよ」さえつけておけば土佐弁か、ちよつとなあ、という思いがぬくえないのはこちらが土佐人だからだろうか。

そういえば、俳句会の仲間に龍馬ファンの旅行会社社長がいるが、彼が初めて高知を訪ねたとき「みなさんが、せよ」と言うのを生で聞いて、ほんとに土佐に来たんだと思つて感激した」という話をしていたことを思い出す。この東京人の旅行会社社長はきょと、活字やドラマなどで得た情報とは違つ、リアル土佐弁に出合つて感激したのだと思つた。

何がリアルなのか、といえは、それは会話の中のイントネーション、ことばの抑揚、アクセントの置き方、いわゆる「訛り」。僕た

ちが、違う地方生まれの役者さんの土佐弁のセリフに微妙な違和感を感じるのも、大方はそこに原因がある。

◆気持ち悪い「こち」

石川啄木の短歌の代表作のひとつ

つにへふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆくがある。ふるさを想うとき、何よりも故郷の言葉と訛りが懐かしい。啄木はそれをふるさと東北につながる上野駅に聞きこ



昨年の関東高知県人大懇親会。県人会会長や幹事長、来賓の皆さんで勢良く鏡開き (山崎進一氏撮影)

いま、東京で故郷の言葉に出合おと思えば、県人会に出席するのが一番手っ取り早い。

先の「行動するがせよ」という、ちよつと気持ち悪い土佐弁の新聞見出しを見た日の1週間前、11月8日の金曜日に、東京・錦糸町のホテルで恒例の「関東高知県人大懇親会」が開催された。関東空母会や東京四万十会といった同郷会、あるいは出身高校別の校友会などが一堂に会する、まさに関東地域の高知県人の大懇親会。毎年60人近くが参加する。

高知からは例年、知事や県会議長、各市町村の首長たちが上京。これに高知県選出・出身の衆参両院議員も加わる。余興として「よさこい鳴子踊り」や黒田月水さんの土佐琵琶演奏があったりして大いに盛り上がる。各テーブルで「おまん、どつしよったせよ」「元氣やったかね」といった土佐弁が行きかたて、実に懐かしい気分になる。土佐の酒も進む。

しかし、ちよつと気になることもあった。気になるところか、気持ち悪いという感じかもしれない。それは「高知」と言うときの発音、方言や土地の言葉の命ともいふべきイントネーションである。

僕は、「高知」は高知県とが「高知の城下へ来てみよう」というときの発音、カナにすれば「こーち」となる平板な発音が土佐の発音だと承知している。これが、人によっては、標準語・発音の高知になる。たとえば野球のコーチと云うときの、あの発音。カナにすれば「こち」。

高知の人間は高知をそういうふうには発音しないだろう。まあ、東京に数十年いれば仕方ないか。しかし、なんか気持ち悪いなあ、と思っていると、それが実は高知から来た人だったりする。余計に気持ち悪い。高知は「こーち」と平板に発音しようよ。発音、イントネーション、抑揚は方言の命、本質せよ。

といったところで余談を一つ。会場で食べた中土佐町のカツオのたたきが絶品。釣ったカツオを特別製法の氷に入れて持つてくるのが素晴らしい味の秘訣だとか。

中土佐町のカツオのたたきについては、現代短歌の人気者、徳方智さんが「半分で燃えつまる火にあふられて鱈く魚を及々キと呼べり」と詠んでいる。この一首を覚えてくれたのは高校の先輩で麻布大学の学長・理事長である政岡俊夫さん。中土佐町久礼出身の政岡さんも、決して高知を「こち」と東京弁ふうには言わない人である。

(室戸市出身、東京都在住)